

FUJIFILM

2013年度 第1四半期 決算説明会

富士フイルムホールディングス株式会社

2013年7月30日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

本日はお忙しいところお集まりいただき有難うございます。

富士フイルムホールディングス 2013年度第1四半期決算について
ご説明させていただきます。

2013年度第1四半期 決算 概況 (2013年4月~6月)

- **メディカルシステム・ライフサイエンス、フラットパネルディスプレイ(FPD)材料、ドキュメントなど全般的に好調に推移**
- **コンパクトデジタルカメラについては、スマートフォンの影響によって需要が減少**
- **為替の円安効果**

**メディカルシステム・ライフサイエンス、
FPD材料・ドキュメント等が好調に推移したことや、
為替の円安効果等により、増収増益**

2

2013年度第1四半期は、
為替の円安影響など、事業環境に明るい兆しが見えはじめました。

事業別では、メディカルシステム・ライフサイエンスやフラットパネルディスプレイ材料、ドキュメント等を中心に、全般的に好調に推移し、増収増益を達成しましたが、電子映像分野については、スマートフォンの影響によるコンパクトデジタルカメラの需要減少の影響を受けました。

2013年度第1四半期 業績 (2013年4月~6月)

(単位:億円)

	2012年度1Q	2013年度1Q	対前年度
売上高	5,183 100.0%	5,687 100%	504 +9.7%
営業利益	209 4.0%	251 4.4%	42 +19.9%
税金等調整前 四半期純利益	134 2.6%	303 5.3%	169 +127.0%
当社株主帰属 四半期純利益	25 0.5%	150 2.6%	125 +497.0%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	5.20円	31.03円	25.83円
為替 :米ドル	80円	99円	19円安
:ユーロ	103円	129円	26円安

3

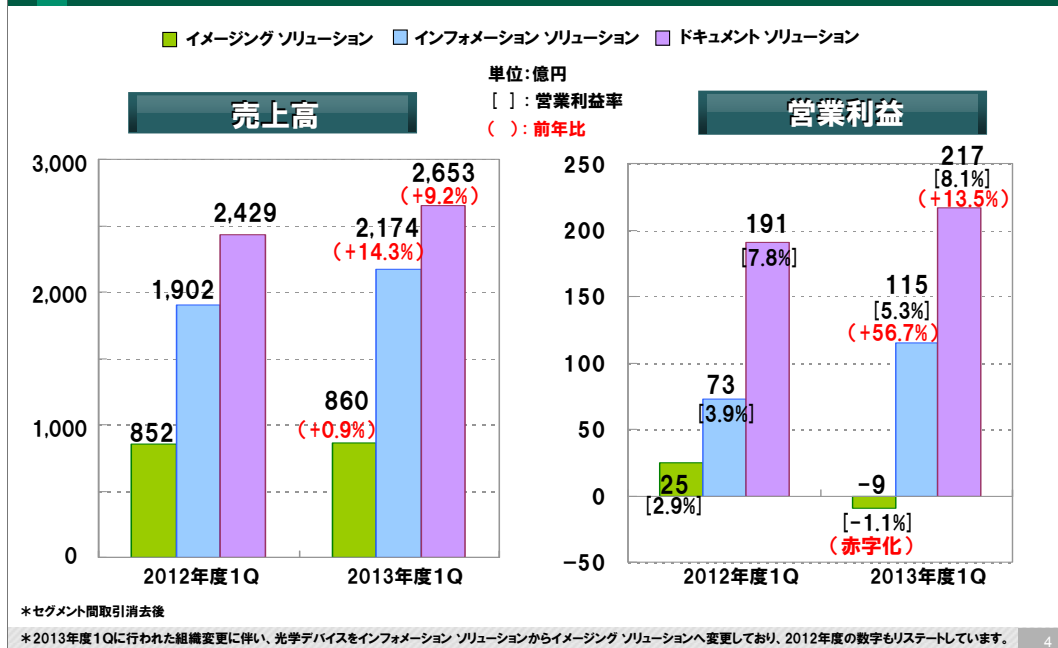
2013年度第1四半期の連結売上高は、コンパクトデジタルカメラの需要減少に伴いデジタルカメラの販売は厳しい状況だったものの、メディカルシステム、フラットパネルディスプレイ材料、ドキュメントなどの売上が好調に推移したことや、為替の円安効果が寄与した結果、前年比9.7%増の5,687億円となりました。

営業利益は、研究開発費が前倒しで発生するという要因はありましたが、売上高の増加に加え、為替の円安効果等により、前年比19.9%増の251億円となりました。

加えて、為替差損益が改善したこと等により、税金等調整前四半期純利益は、前年比127%増の303億円、当社株主帰属四半期純利益は、前年比497%増の150億円と、大幅に増加しました。

1株当たりの当社株主帰属四半期純利益は、31円03銭となりました。

セグメント別：連結売上高／営業利益



続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージングソリューション部門の売上高は、前年比0.9%増の860億円、営業損失は9億円となりました。

なお、2013年度第1四半期に行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

インフォメーションソリューション部門の売上高は、前年比14.3%増の2,174億円、営業利益は前年比56.7%増の115億円となりました。

ドキュメントソリューション部門の売上高は、前年比9.2%増の2,653億円、営業利益は前年比13.5%増の217億円となりました。

セグメント別 概況

■ イメージング ソリューション

- フォトイメージングではインスタントカメラの販売がアジアを中心に好調。新サービス「Year Album」などの付加価値プリントビジネスが拡大。
- 電子映像では、全世界的なコンパクトデジタルカメラの需要減少が響き、売上が減少。Xシリーズを始めとする高級機種は、好調に推移。引き続き高級機種へのシフトを図っている。
- 光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売が大幅に増加したことに加え、テレビカメラ用レンズなどの販売も好調に推移したことにより、売上は増加。

増収を確保したものの、
コンパクトデジタルカメラの需要減少の
影響等を受け、減益

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューション からイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

5

イメージング ソリューション部門では、

フォトイメージングでは、インスタントカメラの販売がアジアを中心に好調に推移しました。

新サービスの「Year Album」をはじめとしたフォトブックなどの付加価値プリントビジネスも拡大しました。

電子映像では、

全世界的なコンパクトデジタルカメラの需要減少が響き、売上が減少しました。

一方、「FUJIFILM X100S」「FUJIFILM X20」などのXシリーズを始めとする高級機種は、好調に推移しました。

引き続き、Xシリーズを始めとする高級機種へのシフトを図っています。

光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売が大幅に増加したことに加え、テレビカメラ用レンズなどの販売も好調に推移したことにより、売上が増加しました。

イメージング ソリューション部門は、増収を確保しましたが、コンパクトデジタルカメラの需要減少の影響などを受け、減益となりました。

セグメント別 概況

電子映像事業部・光学デバイス事業部の統合

■統合による目的・メリット

- ・商品開発力の強化とスピードアップ
 - －レンズ交換式プレミアムカメラ向け交換レンズの開発スピードアップによる早期ラインアップ拡充
 - －カメラモジュール等レンズビジネスの高付加価値化
- ・光学レンズ製品の海外販売強化
 - －今までデジタルカメラを中心に扱っていた海外現地法人を活用して、特に中南米等の新興国で光学レンズ製品の販売を強化
- ・重複業務統合や組織スリム化による事業の効率化
 - －調達・総務/経理・品質保証など、間接部門の重複業務の統合による機能強化と効率化
 - －人員の最適化によるスリムな組織体制の構築

6

ここで、電子映像事業部と光学デバイス事業部の統合について、簡単にご説明させていただきます。

2013年度第1四半期に行われた組織変更に伴い、光学デバイス事業部と電子映像事業部が統合して、光学・電子映像事業部になりました。

この統合によるメリットとして、まず商品開発力の強化とスピードアップが挙げられます。今までも光学デバイスのレンズがデジタルカメラに使われていましたが、この統合によって連携が強化され、デジタルカメラ分野で注力しているレンズ交換式プレミアムカメラ向け交換レンズの開発スピードアップによる、早期ラインアップ拡充を行います。また、デジタルカメラ分野で培った顔認識ソフトをカメラモジュールに組み込む等、レンズビジネスの高付加価値化を図ります。

次に、光学レンズ製品の海外販売強化を行います。

今までデジタルカメラを中心に扱っていた海外現地法人を活用し、特に中南米等の新興国で光学レンズ製品の販売を強化します。

最後に、重複業務の統合や、組織スリム化による事業の効率化です。

調達・総務・経理・品質保証など、間接部門の重複業務の統合による機能強化と効率化を行い、人員の最適化によるスリムな組織体制を構築します。

これらの施策によって、両事業の競争力を強化し、利益を拡大していきます。

セグメント別 概況

■ インフォメーション ソリューション

- フラットパネルディスプレイ材料は、モニター需要の低迷によりWVフィルムの販売がやや落ち込んだものの、プレーンタック、VA用フィルム及びIPS用フィルムが堅調に推移し、事業全体で売上が増加。
- メディカルシステムでは、成長領域である医用画像情報システムや内視鏡、及びX線画像診断装置の販売が、特に国内を中心に好調に推移。為替の円安効果も上乘せされ、前年比で約2割の売上成長。医薬品は、富山化学の「ゾシン」の販売が引き続き好調だったことや、バイオ医薬品受託製造の売上が大きく伸長したこと、富士フィルムファーマが堅調に推移したことなどにより、前年比で2ケタ%の売上成長。ライフサイエンスは、機能性化粧品「新アスタリフト」及び「アスタリフトホワイト」などの新製品の販売が好調。
- グラフィックシステム、記録メディア、産業機材・電子材料他の売上が増加

FPD材料やメディカルシステム・ライフサイエンス等の
事業が好調に推移し、増収増益

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューションからイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

7

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

フラットパネルディスプレイ材料は、モニター需要の低迷によりWVフィルムの販売がやや落ち込んだものの、北米及び中国でのTV販売が好調だった影響で、プレーンタック、VA用フィルム及びIPS用フィルムが堅調に推移し、事業全体では売上が増加しました。

メディカルシステム・ライフサイエンスでは、メディカルシステムの成長領域である医用画像情報システムや、内視鏡及びX線画像診断装置の販売が、特に国内を中心に好調に推移しました。為替の円安効果が上乘せされたこともあり、前年比で約2割の売上成長を実現しました。

医薬品は、富山化学の「ゾシン」の販売が引き続き好調だったことや、バイオ医薬品受託製造を担う富士フィルムダイオシンスバイオテクノロジーズの売上が大きく伸長したこと、また、富士フィルムファーマが2012年9月から開始したバイエル薬品の先発薬の販売が堅調に推移したことなどにより、前年比で2ケタ%の売上成長を達成しました。

ライフサイエンスでは、機能性化粧品「新アスタリフト」及び2013年3月に発売した新・美白スキンケアシリーズ「アスタリフトホワイト」などの新製品の販売が好調に推移しました。

また、グラフィックシステム、記録メディア、産業機材・電子材料他の売上也増加しました。

インフォメーション ソリューション部門は、フラットパネルディスプレイ材料やメディカルシステム・ライフサイエンス等の事業が好調だったことにより、増収増益を確保しました。

セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

- アジア・オセアニア地域での販売、及び米国ゼロックス社向け輸出が伸長し、全体で売上が増加。
- オフィスプロダクトのアジア・オセアニア地域での販売、及び米国ゼロックス社向け輸出は、カラー機、モノクロ機ともに販売台数が増加。
- グローバルサービスは、アジア・オセアニア地域において2ケタ%の増収。
- 商品ミックスの変化や販売単価の下落等による影響を受けたものの、アジア・オセアニア地域での増収や原価改善、及び経費効率化が寄与し増益。

アジア・オセアニア地域での販売、米国ゼロックス社向け輸出の好調やコスト削減が寄与し増収増益

8

ドキュメント ソリューション部門については、

アジア・オセアニア地域での販売、及び米国ゼロックス社向け輸出が伸長し、全体で売上が増加しました。

オフィスプロダクトでは、アジア・オセアニア地域での販売、及び米国ゼロックス社向け輸出で、カラー・モノクロ機ともに販売台数が増加しました。

加えて、グローバルサービスでも、アジア・オセアニア地域で2ケタ%の増収を確保しました。

ドキュメント ソリューション部門は、

商品ミックスの変化や販売単価の下落等による影響を受けたものの、アジア・オセアニア地域での増収や原価改善及び経費効率化が寄与し、増収増益になりました。

連結貸借対照表

					(単位:億円)				
	11年度末	12年度末	13年6月末	対12年度末		11年度末	12年度末	13年6月末	対12年度末
現金及び現金同等物	2,351	4,454	5,007	553	長短社債及び借入金	1,989	3,583	3,586	3
受取債権	5,565	5,889	5,534	-355	支払債務	2,584	2,510	2,454	-56
棚卸資産	3,780	3,999	4,192	193	その他流動固定負債	4,259	4,255	4,303	48
有価証券 その他流動資産	1,524	1,271	1,414	143	負債計	8,832	10,348	10,343	-5
流動資産計	13,220	15,613	16,147	534	株主資本計	17,218	18,689	19,205	516
有形固定資産	5,539	5,461	5,430	-31	非支配持分	1,347	1,559	1,579	20
営業権	3,935	4,122	4,146	24	純資産計	18,565	20,248	20,784	536
投資有価証券 その他資産	4,703	5,400	5,404	4	負債・純資産合計	27,397	30,596	31,127	531
固定資産計	14,177	14,983	14,980	-3	(単位:円)				
資産合計	27,397	30,596	31,127	531	期末日 為替レート	11年度末	12年度末	13年6月末	対12年度末
					米ドル	82	94	99	5円安
					ユーロ	110	121	129	8円安

次に、バランスシートについてご説明します。

2013年6月末時点の資産は、

主に現金及び現金同等物の増加や為替の円安影響により、3月末時点と比べ531億円増の3兆1,127億円となりました。

負債は、5億円減の1兆343億円となりました。

株主資本は、516億円増加し1兆9,205億円となりました。

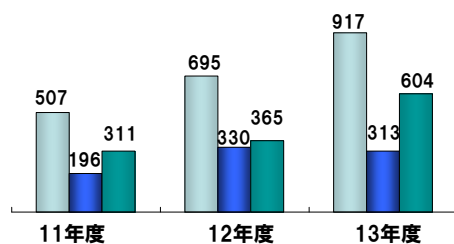
流動比率は、前期末に比べ6.5ポイント増の292.3%、負債比率は1.5ポイント減の53.9%、株主資本比率は0.6ポイント増の61.7%となり、資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しております。

キャッシュ・フロー

(単位:億円)

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー(1Q)



	11年度 1Q	12年度 1Q	13年度 1Q
四半期純利益	174	62	195
減価償却費	349	336	334
受取債権の増(-)減(+)	298	578	442
棚卸資産の増(-)減(+)	-182	-262	-113
営業債務の増(+)-減(-)	-273	-183	-36
未払法人税等他負債の増(+)-減(-)	203	164	201
その他	-62	0	-106
営業活動によるCF	507	695	917
設備投資	-243	-217	-196
ソフトウェアの購入	-36	-36	-48
有価証券・投資有価証券等の売却・購入	151	56	9
その他	-68	-133	-78
投資活動によるCF	-196	-330	-313
フリー・キャッシュ・フロー	311	365	604
営業活動によるCF+設備投資	264	478	721

10

続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、四半期純利益の増加などにより、917億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の購入などにより、313億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、604億円のプラスとなりました。

以上で2013年度第1四半期決算の説明とさせていただきます。

2013年度 連結業績予想（2013年7月30日時点）

（単位：億円）

	2012年度	2013年度 （予想）	対前年度
売上高	22,147 100.0%	23,500 100.0%	1,353 +6.1%
営業利益	1,141 5.2%	1,400 6.0%	259 +22.7%
税金等調整前 当期純利益	1,192 5.4%	1,400 6.0%	208 +17.5%
当社株主帰属 当期純利益	543 2.5%	700 3.0%	157 +29.0%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	112.65円	145.27円	32.62円
為替：米ドル	83円	95円	12円安
：ユーロ	107円	125円	18円安

*2013年度 営業利益 為替感応度 米ドル:11億円、ユーロ9億円

11

ここからは、2013年度の業績予想について、ご説明いたします。

2013年度の業績予想は、4月30日に発表いたしました通り、売上高2兆3,500億円、営業利益1,400億円を見込んでいます。

第1四半期の状況を見ますと、当社はこの業績予想に対して順調に推移していますが、第2四半期以降も引き続き、各事業の重点施策を強力に推進していきます。

特に、6月に統合した光学・電子映像では、昨年度後半より実施している固定費の大幅削減や、統合のシナジー効果が第2四半期以降、徐々に顕在化します。

また、グラフィックシステムでは、北米大手ディーラーの切替に成功したこと等により、CTPプレートのシェアをさらに上昇させます。成長分野であるデジタルプリンティング分野でも、Jet Pressなど、当社グループの技術を結集した差別化製品の拡販を強化していきます。

加えて、今後の収益の柱であるメディカルシステム・ライフサイエンスでは、医療IT、内視鏡、超音波診断装置の拡販をさらに強化するとともに、医薬品で大幅な収益向上を実現します。高機能材料では中小型ディスプレイ用途のフィルムや新規高機能材料の拡販を行います。ドキュメントでは、ソリューションサービスの拡大と、中国を中心としたアジアでの販売を強化します。

このように、各事業で差別化商品を武器に、引き続き拡販施策を強化するとともに、一層のコストダウン・経費削減の推進により、利益を拡大させていきます。

FUJIFILM

わたしたちは、先進・独自の技術をもって、
最高品質の商品やサービスを提供する事により、
社会の文化・科学・技術・産業の発展、
健康増進、環境保持に貢献し、
人々の生活の質のさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

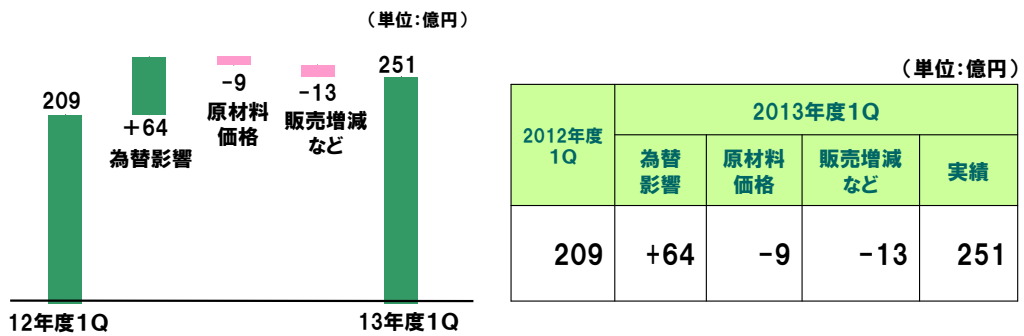
<http://www.fujifilmholdings.com>

以上、2013年度第1四半期および2013年度の見通しについて、ご説明いたしました。
ご静聴いただき、ありがとうございました。

2013年度第1四半期 決算説明会

参考資料

営業利益 増減要因



	2012年度1Q (平均)	2013年度1Q (平均)	対前年度
為替			
米ドル	80円	99円	19円安
ユーロ	103円	129円	26円安
原材料			
銀	79,000円/kg	78,000円/kg	-1,000円/kg

<当スライドは配付資料です>

1Q 業績

(単位:億円)

売上高	2012年度1Q	2013年度1Q	対前年度
イメージング ソリューション	852	860	8 (+0.9%)
インフォメーション ソリューション	1,902	2,174	272 (+14.3%)
ドキュメント ソリューション	2,429	2,653	224 (+9.2%)
合計	5,183	5,687	504 (+9.7%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益	2012年度1Q	2013年度1Q	対前年度
イメージング ソリューション	25	-9	-34 (赤字化)
インフォメーション ソリューション	73	115	42 (+56.7%)
ドキュメント ソリューション	191	217	26 (+13.5%)
全社/連結調整	-80	-72	+8
合計	209	251	42 (+19.9%)

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューションからイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

15

<当スライドは配付資料です>

1Q 業績

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	2012年度1Q	2013年度1Q	対前年度
フォトイメージング	478	485	7 (+1.3%)
電子映像	258	206	-52 (-19.8%)
光学デバイス	116	169	53 (+44.9%)
光学・電子映像	374	375	1 (+0.4%)
合計	852	860	8 (+0.9%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2012年度1Q	2013年度1Q	対前年度
イメージング ソリューション	25 [2.9%]	-9 [-1.1%]	-34 (赤字化)

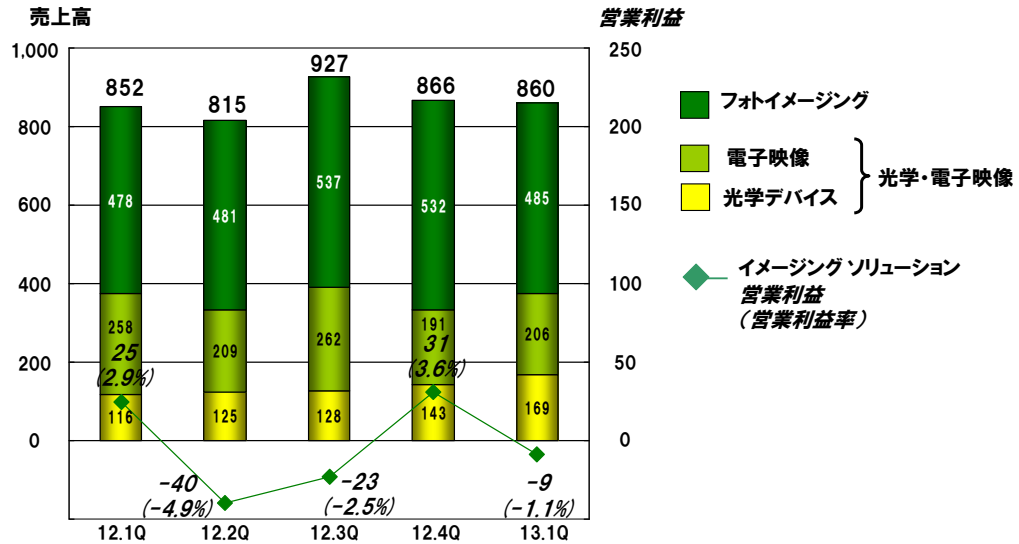
*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション・ソリューションからイメージング・ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

16

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ イメージング ソリューション



*セグメント間取引消去後

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

17

<当スライドは配付資料です>

1Q セグメント別 業績

■ イメージング ソリューション

フォトイメージング

- 新製品効果により、インスタントカメラの販売が好調に推移。
- 新サービス「Year Album」などの付加価値プリントビジネスが拡大。
- 撮影用・上映用の映画フィルムの生産・販売を終了。

光学・電子映像

【電子映像】

- 全世界的なコンパクトデジタルカメラの需要減少が響き、売上は減少。
- 2013年2月に発売した「FUJIFILM X100S」を含め、高級機種「Xシリーズ」は堅調に推移。

【光学デバイス】

- スマートフォン用カメラモジュールの販売が大幅に増加したことに加え、テレビカメラ用レンズなどの販売も好調に推移したことにより、売上は増加。

<当スライドは配付資料です>

1Q 業績

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	2012年度1Q	2013年度1Q	対前年度
メディカルシステム ライフサイエンス	676	797	121 (+18.0%)
グラフィックシステム	582	660	78 (+13.5%)
フラットパネルディスプレイ材料	372	400	28 (+7.6%)
記録メディア	98	109	11 (+10.8%)
産業機材/電子材料他	174	208	34 (+19.5%)
合計	1,902	2,174	272 (+14.3%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2012年度1Q	2013年度1Q	対前年度
インフォメーション ソリューション	73 [3.9%]	115 [5.3%]	42 (+56.7%)

*産業機材とグラフィックシステムの一部事業の組換えにより、2012年度の数字もリスタートしています。

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューションからイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

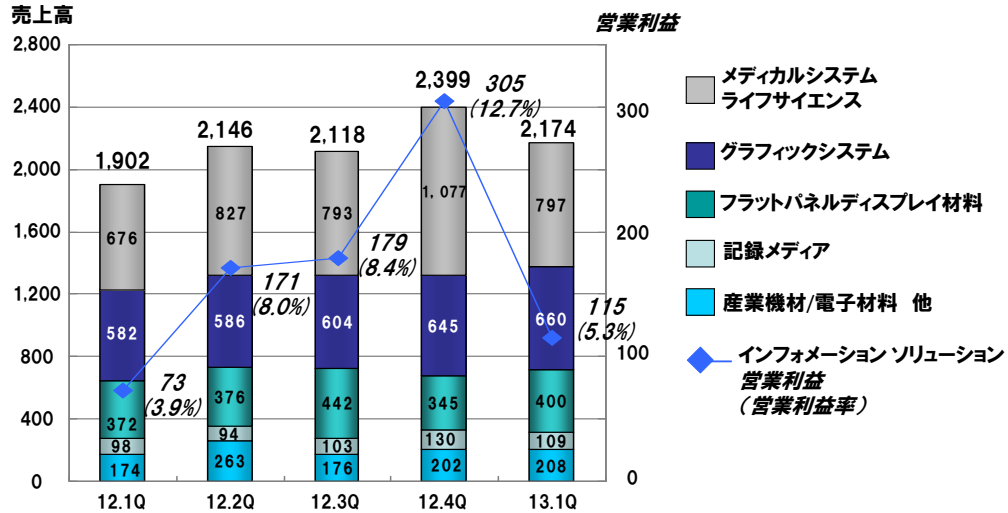
19

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)



*セグメント間取引消去後

*産業機材とグラフィックシステムの一部事業の組換えにより、2012年度の数字もリスタートしています。

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション・ソリューションからイメージング・ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

20

<当スライドは配付資料です>

1Q セグメント別 業績

■ インフォメーション ソリューション

メディカルシステム・ライフサイエンス

【メディカルシステム】

- 医療IT分野では医用画像情報システム(PACS)を中心に診療情報分野への事業拡大を進め、売上が増加。特に国内では大型商談を獲得し、売上に大きく寄与。「SYNAPSE」は国内で引き続きトップシェアを維持。
- 内視鏡分野では、高画質経鼻内視鏡、新世代内視鏡システム「LASEREO」等が堅調に推移したことにより、売上が増加。
- 小型デジタルX線画像診断装置「FCR PRIMA」シリーズの販売が新興国などで好調。国内での一般X線領域のDRにおいては、昨年度販売でトップシェアを獲得したFPD搭載のデジタルマンモグラフィを含め、今年度に入ってから好調を維持。

【医薬品】

- 富山化学は「ソシン」の販売が引き続き好調に推移。
- 富士フィルムダイオシンスバイオテクノロジーズは、為替の円安効果も含めて売上が大きく伸長。継続した成長のための、新規顧客開拓も行っている。
- 富士フィルムファーマは、バイエル薬品より専売権を獲得した先発薬の販売が堅調で売上が増加。
- 富士フィルム発のバイブライン・抗がん剤「FF-10501」の第I相臨床試験が2013年5月から国内で始まった他、テーラーメイド型がんペプチドワクチン「ITK-1」の第III相臨床試験の国内での治験届を提出するなど、着実にバイブラインの開発を推進中。

【ライフサイエンス】

- 機能性化粧品「アスタリフト」シリーズ、2013年3月に発売した新・美白スキンケアシリーズ「アスタリフトホワイト」の国内販売が好調に推移。固定客数の拡大に注力した販促活動を展開。

21

<当スライドは配付資料です>

1Q セグメント別 業績

フラットパネルディスプレイ材料

- 液晶TV用パネルの生産好調に伴い、ブレンタック、VA用フィルム、IPS用フィルムの販売は好調に推移。
- IT機器の需要低迷の影響により、WVフィルムの売上は減少。

グラフィックシステム

- CTPプレートの販売は、日本のシェアアップや北米大手ディーラーの切替等により、堅調に推移。加えて、為替の円安効果も含めてデジタルプリンティング機器の販売が好調に拡大したことなどにより、売上が増加。

記録メディア

- 総需減の影響により業務用ビデオは厳しい状況にあるが、バリウムフェライト (BaFe) 磁性体を使用した大容量磁気テープの販売が順調に伸びており、データテープの売上は好調に推移。

産業機材/電子材料 他

- 工業用X線フィルムの販売が好調に推移したことや、2012年度に出荷を開始した太陽電池用バックシート、タッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」などの新規製品の販売が堅調に推移し、売上が大幅に増加。
- 電子材料事業は、ArF液浸レジストやCMPスラリー、イメージセンサー用カラーモザイクなど韓国・台湾向け先端製品の販売が好調に推移し、売上が増加。

22

<当スライドは配付資料です>

1Q 業績

■ ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高	2012年度1Q	2013年度1Q	対前年度
オフィスプロダクト	1,231	1,277	46 (+3.8%)
オフィスプリンター	402	422	20 (+4.9%)
プロダクションサービス	345	359	14 (+4.1%)
グローバルサービス	238	339	101 (+42.6%)
その他	214	256	42 (+19.5%)
合計	2,429	2,653	224 (+9.2%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2012年度1Q	2013年度1Q	対前年度
ドキュメント ソリューション	191 [7.8%]	217 [8.1%]	26 (+13.5%)

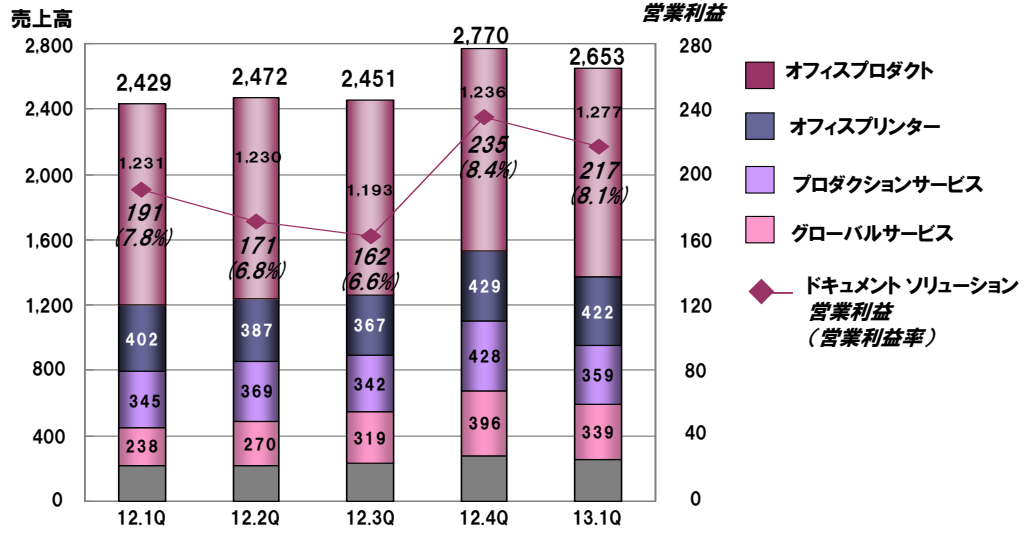
23

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメントソリューション

(単位:億円)



<当スライドは配付資料です>

1Q セグメント別 業績

■ ドキュメント ソリューション

オフィスプロダクト

- 国内において、カラー機の販売台数が増加した一方で、モノクロ機の販売台数は前年度に大型商談があったため、前年比では減少。コピー単価の下落により消耗品及び保守サービス売上は減収。
- アジア・オセアニア地域において、2013年5月発売の「DocuCentre S2220/S2420」が好調に推移。
- 米国ゼロックス社向け輸出において、カラー機の新製品が好調に推移し、モノクロ機とともに販売台数が増加。

オフィスプリンター

- アジア・オセアニア地域において、カラー機の販売台数が増加した一方でモノクロ機は減少。

プロダクションサービス

- 国内及びアジア・オセアニア地域において、カラー・オンデマンド・パブリッシング・システムの販売が好調に推移したものの、全体の販売台数は前年並み。
- 米国ゼロックス社向け輸出において、カラー・オンデマンド・パブリッシング・システムの販売が好調に推移し販売台数が増加。

グローバルサービス

- 国内において、マネジメント・プリント・サービス事業が伸長し増収。
- アジア・オセアニア地域において、売上が2ケタ%増加。

<当スライドは配付資料です>

国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2012年度1Q		2013年度1Q		対前年度	
	構成比 (%)		構成比 (%)			
日本	44.1%	2,284	41.1%	2,338	54	(+2.4%)
米州	18.1%	938	18.2%	1,037	99	(+10.6%)
欧州	12.0%	623	12.0%	683	60	(+9.5%)
内、中国	8.8%	455	11.1%	633	178	(+39.2%)
アジア他	25.8%	1,338	28.7%	1,629	291	(+21.8%)
海外	55.9%	2,899	58.9%	3,349	450	(+15.5%)
合計	100.0%	5,183	100.0%	5,687	504	(+9.7%)

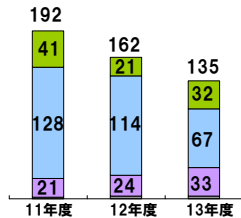
26

<当スライドは配付資料です>

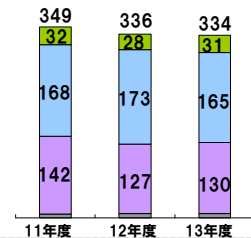
設備投資、減価償却費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

設備投資(1Q)



減価償却費(1Q)



(単位:億円)

	2011年度		2012年度		2013年度	
	1Q	通期	1Q	通期	1Q	通期 (予想)
イメージング	41	128	21	99	32	150
インフォメーション	128	562	114	399	67	430
ドキュメント	21	193	24	248	33	290
コーポレート	2	26	3	21	3	30
設備投資 ※	192	909	162	767	135	900
イメージング	32	146	28	133	31	-
インフォメーション	168	725	173	718	165	-
ドキュメント	142	575	127	531	130	-
コーポレート	7	32	8	33	8	-
減価償却費	349	1,478	336	1,415	334	1,400
有形固定資産の 減価償却費 ※	222	966	209	934	206	900

*ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

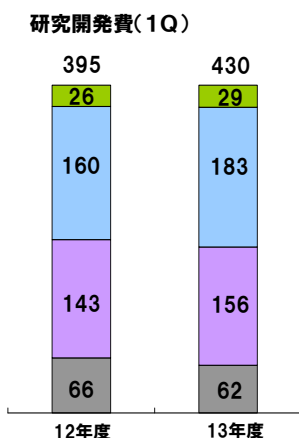
*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2011・2012年度の数字もリスタートしています。

<当スライドは配付資料です>

研究開発費、販売費および一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)



	2012年度		2013年度	
	1Q	通期	1Q	通期 (予想)
イメージング	26	105	29	-
インフォメーション	160	675	183	-
ドキュメント	143	634	156	-
コーポレート	66	268	62	-
研究開発費	395	1,682	430	1,700
<売上高比>	7.6%	7.6%	7.6%	7.2%
販売費及び一般管理費	1,448	5,682	1,525	-
<売上高比>	28.0%	25.6%	26.8%	-

* 2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

<当スライドは配付資料です>

為替、為替感応度、人員

為替

(単位:円)

	2012年度					2013年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	通期 (予想)
米ドル	80	79	81	93	83	99	95
ユーロ	103	98	105	122	107	129	125

*2013年度 営業利益 為替感応度 米ドル:11億円、ユーロ9億円

人員

(単位:人)

	2012.6末	2012.9末	2012.12末	2013.3末	2013.6末
連結	80,155	79,845	81,542	80,322	79,965

<当スライドは配付資料です>

富士フィルム連結グループのパイプライン

開発番号	薬効	剤形	地域	開発段階	備考
T-705	抗ウイルス剤	経口	日本	承認申請中	
			米国	PII実施中	
T-3811	ニューキノロン系合成抗菌剤	経口	中国	PIII終了、申請準備中	国内はジェニナック錠として上市済み
T-2307	抗真菌剤	注射	米国	PI実施中	
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	経口	米国	PII実施中	
			日本	PI実施中	
T-4288	マクロライド系抗菌剤	経口	日本	PI準備中	
バイオ ITK-1	抗癌剤(前立腺癌)	注射	日本	PIII 8月開始予定	
FF-10501	抗癌剤(血液癌)	経口	日本	PI実施中	
			欧米	PI準備中	
バイオ FF-21101	抗癌剤(難治性固形癌)(Armed抗体)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	
FF-10502	抗癌剤(難治性固形癌)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクスのFKB327(アダリムマブバイオシミラー)は、計画通り2013年4月に欧州でPIを開始。

<当スライドは配付資料です>

参考情報

富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・カンファレンス資料

- － 2012年12月 野村インベストメントフォーラム2012
- － 2013年 3月 大和インベストメントカンファレンス2013

・事業説明会資料

- － 2012年 9月 メディカルシステム事業説明会
- － 2012年11月 医薬品事業説明会
電子材料事業説明会
- － 2013年 6月 ドキュメント事業説明会

富士フィルムってどんな会社？

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

31

<当スライドは配付資料です>